

ツネログ

#04

2024年12月号



47都道府県サッカー協会(47FA)の皆さんとしっかりとコミュニケーションを取り、施策や課題を共有していくべくスタートした47FA訪問会議。9月から全国各地を回り、2024年末の時点で3分の1ほどが終わりました。

各FAの現状を理解し、それぞれに違う課題があることを認識できる機会となっており、私にとって非常に有意義な時間になっています。顔を合わせて話をしていくことで、皆さん一人ひとりとの距離もより近づけたのではないかと思います。できる限り早くすべて回り切りたいと考えています。

10月27日には鹿児島県サッカー協会創立75周年記念式典に出席する機会がありました。全国規模でスタジアムの新設が広がっていくなか、鹿児島ユナイテッドFCのホームタウンである鹿児島市においても、その議論が行われています。下鶴隆央市長とのトークセッションのなかで、スタジアムができた暁にはSAMURAI BLUE(日本代表)に試合をしてもらえるのか、との要望もありました。スタジアムの規模やアクセス面なども考慮しなければなりませんが、可能性としては「ある」と思っています。世界で活躍する選手たちのプレーを直に見ることが、普及にもつながっていくはずですから。たとえSAMURAI BLUEが難しい場合でもアンダーカテゴリーの代表を含めると可能性を探っていくのではないかと考えています。

地方で開催する意義を強く感じたのが、6月にエディオンピースウィング広島で行ったシリア代表とのFIFAワールドカップ26アジア2次予選でした。広島で日本代表が試合をしたのは実に20年ぶりで、スタンドからファン、サポーターのワクワクした感情が私にも伝わってきて、とても新鮮な気持ちになりました。

選手たちにはロッカールームで「これだけの雰囲気をつくってくれたことに感謝しつつ、応援してくれる人たちを幸せな気持ちにすることが、われわれ代表チームに与えられた役割だ」と言いました。これは私が現役時代、ジーコ監督が語ってくれた言葉です。

11月の同アジア最終予選(対インドネシア代表、中国代表)は放映権を持つDAZN(ダゾーン)が無料配信し、多くの人に試合を観てもらえたのではないのでしょうか。日本サッカー協会(JFA)にも「最終予選の試合を観ることができないのは残念」という声が寄せられていただけに、DAZNさんの協力にあらためて感謝を申し上げたいと思います。この無料配信を一つ例にとっても、日本サッカーをみんなで一緒になって盛り上げていこうという空気を感じています。JFA、Jリーグ、WEリーグ、そして47FAを含めて関係各所みんなが一緒になって、日本サッカーのために力を合わせてやっていくことが大切だと感じています。

2024年が終わろうとしています。皆さんのご尽力があって素晴らしい1年をすることができました。さらなる飛躍が期待されるSAMURAI BLUE、新体制に移行するなでしこジャパン(日本女子代表)にとっても、そして日本サッカー界にとっても明るい2025年が待っていると信じています。



公益財団法人 日本サッカー協会 会長

宮市恒靖

会長の活動報告

2024年10月18日～11月21日(抜粋版)

10/19(土)沖縄県、24(木)岐阜県、25(金)静岡県
11/7(木)和歌山県、8(金)大阪府

47FA訪問会議



これから毎月4-6回ほどの訪問を予定していますので、皆さまにお会いできるのを楽しみにしています。

9月から始まった47FA訪問会議も11月上旬までに9府県を訪問しました。登録制度改革、暑熱対策、自主財源確保など共通の課題もあれば、各エリア特有の課題もあり、直接顔を合わせて会話をすることの重要性をあらためて感じています。

10/29(火)～11/1(金)

AFC Annual Awards 2023 AFC Member Associations & Regional Associations Presidents' and General Secretaries' Conference 2024 (韓国/ソウル)



大岩剛監督、清家貴子選手、波多野祐一レフェリーが個人表彰を受け、JFAが年間最優秀協会賞(プラチナム)を受賞しました。

これはSAMURAI BLUEやなでしこジャパンなど競技面の結果だけでなく、アンダーカテゴリーの育成や普及、組織としてのガバナ

ンス、その他にも多角的に日本サッカーの活動が評価されたもので、日本サッカーを支える皆さんに贈られた賞です。これからも何度でも受賞できるよう、ともに頑張っていきたいと思います。

10/22(火)

国税庁広報大使任命式(国税庁)



今後も積極的に社会の発展に向けて協力していきます。

JFAは、国税庁が初めて任命する広報大使に就任しました。税金は教育やインフラの整備など社会の発展のために使われており、サッカーを通じて社会に貢献するというJFAの理念と通じるものがあると思います。

11/2(土)

2024JリーグYBCルヴァンカップ決勝(国立競技場)

11/15(金)

FIFAワールドカップ26アジア最終予選(3次予選) vs.インドネシア代表(インドネシア/ジャカルタ)

11/18(月)

第103回全国高等学校サッカー選手権大会 組み合わせ抽選会(日テレホール)



厳しい都道府県予選を勝ち抜いた48チームの選手たちがしのぎを削る、“選手権”の季節がやってきました。100年以上の歴史を刻んできた中で、常連と呼ばれる強豪校のほか、今大会は初出場チームが5チームあります。

どんなドラマが繰り広げられるのか、今からとても楽しみです。

10/26(土)

MIZUHO BLUE DREAM MATCH 2024(国立競技場)



指せるよう今後も継続してサポートしていきます。

2027年FIFA女子ワールドカップを目指すなでしこジャパンの初陣は、韓国女子代表を相手に4-0と幸先の良いスタートとなりました。各世代の女子代表が活躍して選手間の競争もより活発になっています。

さらなるレベルアップを

11/19(火)

FIFAワールドカップ26アジア最終予選(3次予選) vs.中国代表(中国/廈門)



アウェイで行われた中国代表との試合は、難しい展開でしたが3-1で勝利。DAZNにも協力いただいて無料配信を実施し、多くの皆さんに観戦いただきました。次は3月のホームでの2連戦。良い試合をお届けできるよう準備していきます。

10/27(日)

鹿児島県サッカー協会創立75周年記念式典(城山ホテル鹿児島)



未来について前向きな意見交換ができたと思います。

鹿児島県サッカー協会創立75周年記念式典に出席。これまで多くのレジェンドを輩出してきた鹿児島の歴史に感銘を受けました。鹿児島市の下鶴隆中央市長(写真左)との対談でも、新スタジアムの整備や鹿児島サッカーの

11/21(木)

第12回理事会(JFAハウス)

理事会トピックス

2024年度第12回理事会が11月21日(木)、JFAハウスで開催されました。主なトピックスをお伝えします。
詳細およびその他の決議・報告事項については、JFA公式ウェブサイトをご参照ください。



決議事項

各種規則の改正

国内の期限付き移籍に関する規定をFIFAの規則に合わせるほか、Jリーグでの決定事項を踏まえて、「プロサッカー選手の契約、登録および移籍に関する規則」を改正します。合わせて「懲罰規程」「JFAフットボールエージェント規則」「ユニフォーム規程」「和解あっせんに関する規則」の改正も決議されました。

国際委員会 委員選任

外務省の官房総務課長である川埜周さんが、滝崎成樹さん(内閣官房TPP等政府対策本部 首席交渉官)に代わって国際委員に選任されました。

報告事項

暑熱環境下におけるサッカー活動

地域・都道府県サッカー協会および各種連盟に対し、11月12日付けで暑熱環境下におけるサッカー活動についての周知文書を発信しました。JFAは2016年に「熱中症対策ガイドライン」を作成し、安全確保に取り組んでいましたが、2025年度以降は、JFAの主催大会やフェスティバルなどを原則、7月・8月は開催しないこととしました(ただし、

屋内や冷涼地などにおいて安全確保が十分に可能と判断できるような場合はこの限りではありません)。他団体の主催大会については開催地や開催時期の変更を含め、引き続き協議していきます。

国税庁広報大使に任命

JFAが10月22日、国税庁初の「広報大使」に任命されました。今後、試合会場の大型映像を使って税に関する情報を発信するなど、国税庁と連携してPR活動を行っていきます。

AFCアニュアルアワード2023

「AFCアニュアルアワード2023」が10月29日に韓国・ソウルで開催され、パリオリンピックでU-23日本代表を率いた大岩剛監督が年間最優秀監督賞(男子)、なでしこジャパンの清家貴子選手が年間最優秀選手賞(女子)、波多野祐一レフェリーが審判特別賞を受賞しました。また、JFAは年間最優秀協会賞(ブラチナム)を受賞しました。

日本サッカー後援会 会員表彰

1977年に発足した日本サッカー後援会は、日本代表強化や各種事業支援のために毎年JFAやなでしこリーグ、障がい者サッカー連盟などに交付金を拠出しており、その金額は累計で約19億円に上ります。今回、後援会会員として30年在籍されている41名、40年在籍されている10名の方々に、長年のご支援に対する感謝として表彰を行いました。

Information

体験型教育ワークショップ 「NO AWAY ACADEMY」を開催

JFAは三井不動産株式会社、株式会社みずほフィナンシャルグループ、株式会社読売新聞東京本社と協力し、体験型教育ワークショップ「NO AWAY ACADEMY」の取り組みをスタートします。これはサッカーを通して日頃無意識に抱えている偏見や固定概念に気づき、日常に活かせる新しい視点を親子で学ぼうというもので、第1回は11月15日、元なでしこジャパンの澤穂希さんと鮫島彩さんをスペシャル講師に迎えて、JFAサッカー文化創造拠点「blue-ing!」で開催します。※10/23発表

JFA×ANA価値共創活動「JFA 第48回全日本U-12サッカー選手権大会 応援企画 produced by TEAM BLUE」

全日本空輸株式会社(以下、ANA)と協働し、鹿児島で行われるJFA 第48回全日本U-12サッカー選手権大会に小学生50名を招待して、交流サッカーや「夢の教室/特別編」を開催します。JFAとANAは、サッカーを通じて社会と関わる輪を一つのチームと捉え、「TEAM BLUE」として協働しています。この取り組みを通じて開催地の機運の醸成や地域活性化を図るとともに、U-12年代の選手らの真剣勝負を観戦した子どもたちがサッカーに関心を持ち、サッカーにトライし、継続してくれることを目指します。※11/1発表

FIFAE World Cup2024™ サッカーe日本代表 選手決定

国内で50万人以上が参加したオンライン予選を経て、11月2日と3日にblue-ing!で「JFAサッカーe日本代表選抜大会 2024」が行われ、SHIGE

選手、かつびーや選手、Ax選手、Takaki選手の4選手が日本代表として「FIFAE World Cup 2024」(※)に出場することになりました。※11/5発表
※FIFAが2024年末に主催する公式eスポーツ・サッカーの国際大会。招待された18の国や地域を代表する選手たちがコンソール(家庭用ゲーム機部門)部門とモバイル部門の2つのカテゴリーで世界一の座を競い合う。

SAMURAI BLUEとなでしこジャパンのキットマネージャーがblue-ing!「DISCOVERY」エリアのスタッフに着任

blue-ing!の「DISCOVERY」エリアのスタッフに、SAMURAI BLUEキットマネージャーの麻生英雄となでしこジャパンキットマネージャーの大沼希が着任しました。
2023年12月23日にオープンしたblue-ing!は、今年11月1日から新たな体制で営業しています。「DISCOVERY」は、最新技術を駆使した体験コンテンツや日本サッカーの歴史アーカイブを楽しめるエリアで、麻生、大沼が常勤のスタッフとして運営やお客さま対応などに当たること、より身近に日本代表を感じていただきたいと考えています。※11/20発表

その他の主なニュース

- ・日本シグマックス株式会社(ZAMST)と「U-12カテゴリーパートナー」契約を締結 ～ JFA 第48回全日本U-12サッカー選手権大会(11/6発表)
- ・「フットボールキッズ in 東京ドーム」開催決定 元日本代表選手とサッカーを楽しもう! (11/9発表)
- ・テーブルマーク株式会社と「U-12カテゴリーパートナー」契約を締結 ～ JFA 第48回全日本U-12サッカー選手権大会(11/11発表)



JFA国際委員

大滝麻未さんを マンマーク!

第4回はJFAの国際委員、WEリーグの理事に就任した元なでしこジャパンの大滝麻未さん。宮本恒靖会長とはFIFAが主宰するスポーツ学の修士課程「FIFAマスター」を修了した先輩、後輩の間柄でもあります。

大滝 FIFAマスターに行くきっかけは、ツネさんの記事を読んでこういう場所があるんだって知ったからなんです。一度、現役を引退して自分が何をやりたいのかがハッキリしなかったときに、やっぱりもうちょっと勉強したいなというところがありました。

宮本 (FIFAマスターでは)多角的に物ごとを見るというところがすごく鍛えられましたね。スポーツにおける歴史学、経営学、法学。どうしてこの3つなのかと最初は思ったけど、今の立場になってみると大事な要素だと感じます。(学んできたことを)大事にしなきゃ、と日々思い出しながらやっている感じもありますよ。

大滝 私も修了して、いろんなところで“こういうことか!”と思わされることが多いです。現役に復帰してから2019年に一般社団法人なでしこケア(なでケア)を立ち上げたのですが、学んだことが活かされていると思います。その際、ツネさんにビデオメッセージをお願いして、快く引き受けてくださいましたよね。

宮本 ガンバ大阪の監督時代に、一人でカメラを向けながら(笑)。

大滝 なでケアを立ち上げたのは、単純にもっと日本の女子サッカーが盛り上がってほしいという思いが大きくて。大学生のころに2011年のワールドカップをテレビで観て、卒業後フランスに渡ってから13年に帰国したとき、ワクワクした思いがあったんです。でも(盛り上がりが)なかなか持続しなくて、たくさんの人に応援してもらえる状況ではなかったの、やっぱりもう1回あの景色を見たいな、と。もう一つの理由としては、日本の女子サッカー選手って、良くも悪くもすごく謙虚。プロリーグができるにあたり、プロ選手としてどう行動していけばいいのか。また引退後のキャリアをサポートしていきたいという思いもありました。周りの選手たちと会話をしていくなかで、何か立ち上げようってなったんです。

宮本 (WEリーグ理事として)お願いしたいのは、大滝さんが指摘する「謙虚すぎるマインドセット」を変えてほしいなというところ。選手たちが自分自身で発信していく、プロモーションしていく。そういう役割を大滝さんには担っていただきたい。

大滝 日本の女子選手って、なかなかアクションを起こさない。でも心のうちでは、何とかしたいと思っている選手が多いというのは肌感覚で分かっているつもりです。もちろんピッチの上で活躍することが一番大事ですけど、選手たちの思いを引き出してアクションにつなげていきたい。選手たちがどんどん出ていって、発信していけば女子サッカー全体を広げていける。思いを内に秘めたままにしないで外に出してもらえようようにしたいですね。結果的に女子サッカーが盛り上がることや、もっと応援しようって思ってくれる人を増やすことにつながればいいのかなって思います。

宮本 WEリーグには男子の選手にはなかなかない柔らかさ、アイデアがあって試合自体、非常に面白い。なでしこジャパンがワールドカップで優勝したときのような状態にしておくためには、WEリーグがもっと輝いて存在する必要があります。今季で4年目に入りましたが、いろんな意味でもっと良くなっていかなくちゃいけない。今その思いを持ってみんなが動き始めていると思います。

大滝 私自身、妊娠、出産を経て、キャリアと子育てを両立していくことの難しさを感じています。WEリーグが大事にする「女性活躍」を実現していくには一歩踏み出した施策にチャレンジしていかないと、大きく変わっていくことは難しい。自分自身、理事としてそういったことに関わっていきたいと考えています。

宮本 JFAとしては女子のチームを増やしていくことをやっていかなくちゃいけない。特にU-15世代ですね。今、47FIFAを回って話を聞いてみても、そこが改善点だという認識を持っています。普及のところ、そしてなでしこジャパン、WEリーグなどトップのところをしっかりと両立していきたい。大滝さんの力を借りながら、一緒に取り組んでいければと思います。

大滝麻未 (おおたき・あみ)

1989(平成元)年7月28日生まれ。神奈川県出身。

早稲田大学卒業後、オリンピック・リヨン(フランス)に加入し、リーグ・カップ・UEFA女子チャンピオンズリーグの三冠を達成。ユニバーシアード代表として2009年および11年に銀メダル獲得。12年なでしこジャパン初選出。浦和レッズレディース、EAギャンガン(フランス)でプレーし、16年に引退してFIFAマスター入学。修了後FC(同)で選手に復帰し、ニッパツ横浜FCシーガルズ、ジェフユナイテッド市原・千葉レディースでプレー。妊娠・出産を経て23年に現役引退。現在は19年に設立した一般社団法人なでしこケアで女子サッカーの社会的地位の向上や社会課題の解決に取り組んでいる。



誌面には掲載しきれなかった話も...
▶ 対談動画公開中!



※次号は2025年1月発行予定/本誌クレジット表記のない写真: ©JFA、©JFA/PR、©Jリーグ、©WEリーグ

